

高齢者宅訪問は効果的ではないと思われるが、 より質の高い明確なエビデンスがあればいくつかの 介入方法がいくつかのグループには効果ありと示す可能性あり



転倒防止を目的とした 高齢者宅訪問は効果なし

このレビューの目的は？

このキャンベルの体系的レビューは、高齢者が身体不自由になること、施設への収容、死亡事故などを予防するために行う家庭訪問の有効性を評価すること、そしてそのような状況にならないための緩和させるような要素を特定する。このレビューは、64の研究から得られた調査結果をまとめたものである。その64の研究のうち、以下が研究を行った国と研究調査数の内訳である。英国と米国がそれぞれ14、カナダが11、オランダが5、日本が3、オーストラリアとニュージーランドがそれぞれ4、デンマーク、台湾、スウェーデンがそれぞれ2、スイス、フィンランド、イタリアがそれぞれ1つである。

医療関係や社会福祉関係の専門家による家庭訪問は、高齢者の認知機能障害を予防し、また高齢者が施設などに収容される数を減少させ、高齢者がより長く生きられることを目指している。総合的に見て、家庭訪問はこれらの目的を達成しない。どのようにすれば家庭訪問が効果的になるかを決定づけるには、より質の高い明確なエビデンスが必要だ。

このレビューは何を調査したか？

医療関係や社会福祉関係の専門家による家庭訪問は、主に高齢者を対象とした、予防を目的とした介入である。専門家らの主なねらいは、地域に住む高齢者の健康と自立を維持することである。こういった種の予防を目的とした介入には、高齢者が直面する様々なリスク—身体的、機能的、精神的、環境的、社会的問題に関連した罹患率と死亡率を減少させるための計画が含まれる。

このレビューでは、高齢者が障害を負ったりすること、施設へ収容されること、そして死亡リスクを減少させるための家庭訪問の有効性について考察している。そのような状況を緩和するであろう要因が特定される。

どんな研究が含まれていたか？

含まれている研究は、自宅に住んでいる65歳以上の高齢者のための保健管理者または社会医療専門家（最近退院した高齢者は直接関係しない）による訪問の有効性を評価するランダム化比較試験である。試験対象母集団の50%未満が認知症なしでなければならなかった。

合計28,642名が参加した64の研究が含まれていた。すべての研究は先進国からのものであり、最大数は米国と英国からのそれぞれ14件である。



このレビューはどれくらい最新のものか？

レビュー著者らは、2012年12月までに出版された研究を検索した。このキャンベルのSystematic Reviewは2014年5月に出版された。

キャンベルコラボレーションとはなにか？

キャンベルコラボレーションとは、体系的なレビューを出版する、国際的、自発的、非営利の研究ネットワークである。私たちは、社会・経済政策およびそのプログラムや実践に関して、それらがどれだけ立証できるかその質を評価したり、要約をおこなったりしている。私たちの目標は人々がより良い選択をしたり、人々がより良い政策決定できるよう促進することである。

この要約について

この要約は、Sean Grant、Amanda Parsons、Jennifer Burton、Paul Montgomery、Kristen Underhill、Evan Mayo Wilson (DOI: 10.4073 / csr.2014.3) 著、Campbell Systematic Review 2014: 3「高齢者の障害および死亡予防のための訪問：システムレビュー」に基づいて、Ada ChukwudozieとHoward White（キャンベルコラボレーション）が作成したものである。要約は、Tanya Kristiansen（キャンベルコラボレーション）によって設計、編集、制作された。この要約の作成のためのAmerican Institutes for Researchからの財政支援に深く感謝する。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®

レビューの主な結果は何だったか？

総合的に見て、在宅訪問は地域在住の高齢者の健康と自立を維持する上で効果的ではない。予防のための家庭訪問は絶対死亡率を減少させず、施設に収容された人々の数に有意な効果がなかった。

転倒防止を目的とした介入には全く効果がないという精確な質の高いエビデンスがあり、身体機能と生活の質の面では、統計的に少しの有意な効果が得たという質の低いエビデンスがある。

家庭訪問は地域住民の高齢者の健康と自立を維持するのに有効ではない

施設収容や入院を防ぐことに多少の効果を与えるプログラムもあるかもしれない。しかしながら、研究の対象集団および介入デザインが不均一であり、また研究の設計、実施およびコントロール条件などの研究報告の質が劣っており、断定することは難しい。

このレビューの結果の意味は？

地域に住む高齢者のための家庭訪問は、死亡率および罹患率を有意に減少させない。治療効果の推定値は統計的に正確であった。したがって、通常のケアと比較したさらなる多要素介入の細かい研究が結論を変えることはまずないだろう。

しかしある一部の人々にとっては、いくつかの介入が効果がある可能性がある。介入と比較がどのように実施されたか、という研究報告の質が劣っているため、このレビューでは特定できなかった。研究者らがこれらのタイプの介入について評価を続けるならば、プログラム理論と実施を記述した明確な社会変革理論が必要であり、測定されたすべての結果を報告しなければならない。